

2024年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書			2025/9/15		
団体名	子どもの発達を見まもる親の会つながるココ	活動タイトル	行ってみようよ！地域の歯医者さん・ヘアサロン		
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）			■ 活動風景		
●地域の望ましい社会状況(ビジョン)	障がい児の保護者が孤立せずお互いに繋がり、周りの人々にも手を差し伸べられながら前向きに子育てできる社会である。 困難に直面しても、支援の手がしっかりと用意され、その情報が必要な人々に届いている。また保護者が安心して助けを求められる環境であり、障害を隠すことなく受け入れられる社会である。発達障がいについての正しい知識が人々に広く認識され、さらに多種多様な人々が互いを尊重し、相手を理解しようという気持ちを持った温かい社会であることを願う。		取材活動 「美容室ろまん」		
●団体の社会的役割(ミッション)	当事者団体として当初から保護者の居場所を作り、当事者目線で必要な活動を模索しながら実施してきた。①子育ての悩みを分かち合う茶話会、②様々な勉強会、③親子で楽しめるイベント、④情報発信を4つの柱として現在まで活動している。情報発信では地域の発達支援の情報を発信し、発達支援事業所や相談機関等を取材して紹介し、必要な方につなげてきた。助成事業では、この活動を「発達支援」から「日々の暮らし」へ広げたいと考えている。利用したくても発達特性により困難の多い歯科受診、ヘアカットについて親子に役立つ情報を発信したい。また活動によって歯科医院、ヘアサロンとつながることで地域に発達障害についての理解が広まる一助となるよう活動したい。				
●団体の活動基盤	活動についてメンバー同士が連絡を取り合い内容を共有していること。事務・経理を担当スタッフが責任をもって管理していること。またボランティアスタッフを含めた広報担当スタッフが当会の活動及び地域の子育て支援情報、この度の歯科受診、ヘアカットについての情報をSNSにて常に発信していること。 茶話会を行う固定の場所があり、事務局と密に連絡を取り合いながら作業を適切に分担していること。 活動資金として安定的に寄付を得られていること。 活動に携わることで得たノウハウをスタッフがマニュアル化し、他のスタッフと共有できる仕組みができていること。				
■ 活動報告		■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)	取材活動 「ビューティ・セ ゾーン」		
・歯科医院・ヘアサロンへの取材 発達特性のある子どもにとって負担の大きいとされる「歯科受診」と「ヘアカット」に焦点を当て、配慮のある対応で定評のある歯科医院・ヘアサロンの取材を3件行った。各施設において代表者へのインタビュー、また実際の施設内の見学を通して環境づくりの工夫を確認した。記事にはインタビュー内容と共に写真を多数掲載し、発達特性のある子どもを持つ家庭にとって役立つ情報をまとめた。 ・SNSでの情報発信 Instagram、FB、LINEを活用し、取材の様子や施設の取り組みを発信した。SNSを取材記事を掲載したサイトへの窓口とらえ、発信のタイミング、使用する写真、キャプションの工夫により効果的にシェアする方法を検討した。SNS投稿に対して、「参考になった」「優しい地域であってほしい」等のコメントを複数いただいた。 ・団体サイトに新たに情報発信ページの追加 今回の取材情報をはじめとする、発達特性のある子どもを持つ家庭にとって役立つ情報をまとめたページを新設した。	・歯科医院・ヘアサロンへの取材 当初計画を中断し、3回にとどまった。取材とレポート作成のマニュアルを作成し、参考にしながら実施することができた。取材のたびに気づきをアンケートで確認、共有しながらマニュアルの改善を行った。すべての取材先で発達特性への理解と子どもの受入れ状況を再確認してもらうことができた。 ・HP、SNSにて情報発信 当初計画を中断し、3回分実施した。SNS発信マニュアルを作成したことで複数人での発信作業が可能になった。発信後は取材記事の閲覧数が増加したが、活動中断のためSNS発信も中断したためその後の伸びは減少し、各記事につき150-250回にとどまった。 ・活動基盤の強化 取材・レポート作成・SNS担当スタッフを9名確保したが目標には届かなかった。メンバー増員により、それぞれの経験やスキルを活かすため作業を分担して情報交換しながら進める体制を作った。団体サイトに新たに情報発信ページを追加することができた。				
■ 事業を通して得られたノウハウ		■ 望ましい社会状況を達成するための課題			
・取材活動では知りたい情報を正確に引き出すことができ、相手の方が安心して答えられるような質問項目、写真撮影時の配慮等を含めたマニュアルを作成した。誰が担当しても信頼性の高い取材を安定して行える体制を作った。 ・取材記事をより多くの方へ届けるため、SNSでの発信を強化した。複数人が関わる上での注意点やSNSの特性を生かした運用ノウハウを確立した。 ・協力メンバーが増えたことで、メンバー間の連絡をスムーズに行い、個人の知識や経験をメンバー間で共有できるような体制を作った。その結果、前向きで建設的な雰囲気が今も継続している。 ・サイト作成を依頼した業者から効果的なサイト運営のコツを学ぶことができた。今後自団体で運用していく際にも情報発信力を向上させるスキルを得ることができた。		・地域には子育てへの配慮が想像以上に存在するが、積極的は発信には慎重な姿勢も見られた。活動に共感していただいても、地域での関係性などの事情から協力が難しいケースがあり途中で活動を中止せざるを得なかった。事前に時間をかけて協力の意義や私たちの活動について説明する機会が不可欠だったと感じた。 ・発達が気になる子どもとその家族は日々の暮らしの中で様々な困り事を抱えているが、周りの目を気にしてヘルプを出しづらいという現状がある。だからこそ地域の側から「どんなお子さんでも大歓迎ですよ」というメッセージを積極的に発信していただくことがとても重要で、家族が安心して地域社会に参加するための大きな一歩となるだろう。 ・今回の活動では、任意団体という規模が対応の難しいケースを生み出す一因となった。今後は組織基盤を強化し、信頼を得ることでより多くの協力者や関係機関と連携できる体制を作ることが必要だと感じている。	この1年間の活動を通じて	情報発信サイトの新設および取材と記事作成、SNS発信のノウハウ構築	を達成しました。
■ 受益者の具体的な変化（自由記入）					
・取材活動を知った方から訪問や障害児の受入れを行っている歯科医院やヘアサロンの情報が届くようになり、団体としてより多くの情報提供ができるようになった。 ・活動に関わるメンバーが増員されたこと、取材活動のマニュアルが確立されたことで、今後の取材活動に前向きな雰囲気が生まれた。					